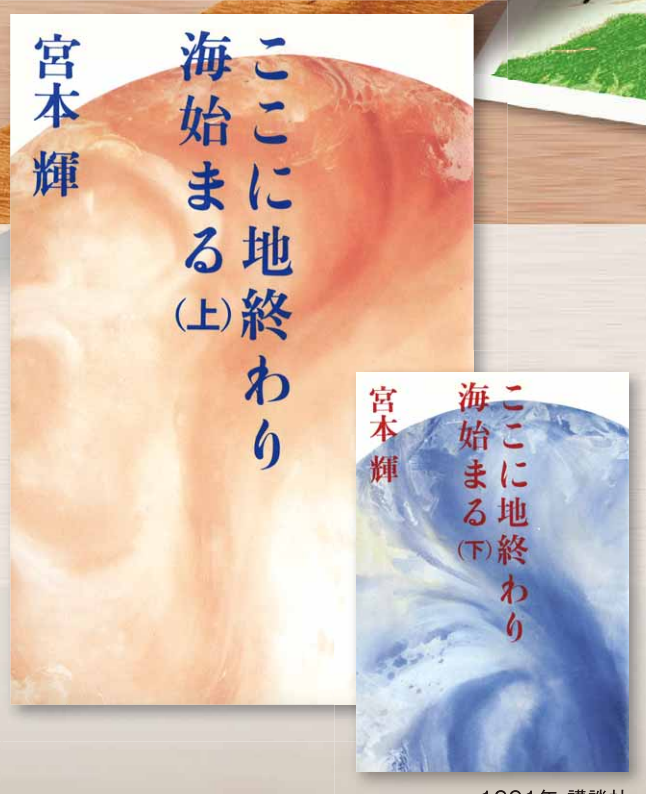
ここに地終わり海始まる

―ここに地終わり 海始まる―。

自分は、すさまじい風と波のロカ岬にたたずんで、
終わりと始まりとが、いつもひとつになって
自分たちの前に存在していると感じた。



1991年 講談社

Story

ポルトガルのロカ岬から届いた一枚の絵葉書は、天野志穂子の18年近くも続いた結核の病状に奇蹟をもたらした。その葉書の差出人は、一世を風靡したコーラスグループ<サモワール>のリーダー梶井克哉。志穂子は梶井に会うため事務所を訪れるが、グループはすでに解散していたことを知る―。人と交わる暮らしのなかで友情、恋を知り成長していく一人の女性の姿に、人の生きる強さを描いた作品。

ロカ岬（CABO DA ROCA）について

ユーラシア大陸の最西端、「最果ての地」に位置するロカ岬。ポルトガルの有名な詩人ルイス・デ・カモンイス（16世紀）の叙事詩「ウズ・ルジアダス（※）」の一節から引用した“ここに地終わり、海始まる”が刻まれた塔が建っている。

※「Os Lusiadas」は“ローマ帝国が入ってくる前のポルトガル人”の意味で、その歴史を詠んでいる。

Eis aqui, quase cume da cabeça	見よ、ここにヨーロッパぜんたいのいわば
De Europa toda, o Reino Lusitano,	いただきにルシタニア王国がある。
Onde a terra se acaba e o mar começa,	**ここで大地はおわり、海がはじまる。**
E onde Febo repousa no Oceano.	そしてポイボスが大洋にいこうのだ。

（参照:「ウズ・ルジアダス」小林英夫ほか訳、岩波書店、1978年）

一枚の絵葉書から始まる人々のドラマ

ずっと病院で療養生活を送ってきたために、自分にあまり自信のない志穂子。そんな彼女が恋をして勇ましくなっていく姿はもちろん、彼女を支える家族や友人の優しさに、人の美しさは内面に宿ると感じました。それぞれに事情を抱えながらも、たくましく前向きに生きる人々。私も見習っていきたいです。

Review